Newspaper in Education

教育に新聞を

NIE

エヌ アイ イー

実践報告書

2015年度

静岡県NIE推進協議会

はじめに

～生きた社会を学ぶNIE～

静岡県ＮＩＥ推進協議会
会長　角替　弘志
（静岡大学名誉教授）

「やさしいＮＩＥ」（第18回ＮＩＥ全国大会静岡大会のスローガン）を提唱してから２年余が経過し、この呼掛けは着実に県内の実践に定着してきています。ＮＩＥ活動のねらいは、人々の関心を子どものころから自分達が生活している今の社会の状況や動きに向ける（社会を学ぶ）ことにありますから、そのためには、新聞が身近にあり、気軽に手にし、ゆったりとした気持ちでこの新聞の記事を読み、写真等に目をやることができる状態や雰囲気が、先ず大切になります。堅苦しさは禁物です。新聞を遠ざけることになりかねません

先日、何気なく新聞を見ていると「古新聞使ったちぎり絵展示」という見出しが目に止まりました（平成28年３月20日静岡新聞朝刊）。島田市湯日のデイサービス施設で利用者の人達が古新聞のカラーページを使ってちぎり絵づくりに挑戦したという記事です。このお年寄りの人達はきっと新聞紙をちぎりつつそこに記されていた記事等をも懐かしく読み返し、何となくではあっても世の中の動きや変化を感じ取っていたに違いありません。

私達は、日々の生活の中で、家庭でも職場でも身近にあり容易に手にすることのできる新聞から、様々な事件・事故、出来事などを知り、ある時は喜び安心し、ある時は悲しみ残念がり悲憤慷慨しつつ、世の中の動きや変化に気付かされることが少なくありません。それとなく新聞からいろいろなことを学んでいるのです。

しかし、新聞はもっと積極的に教育活動に活かすことが出来ます。新聞そのものは学校の教材用として制作されたものではありませんが、様々な分野、様々な地域の最新の情報を記事や写真・図表等で伝えている新聞は、一工夫を加えれば、生きた教材としてより有効に授業等に活用することが出来るのです。以前から、既に多くの教師が各教科の授業等で児童・生徒の関心を高め、理解を深めるために新聞の切抜き（スクラップ）を積極的に利用してきましたが、現在では、本報告書の実践報告にも見られるように、多くの学校で新聞を活用した授業はより多彩、多様に行われるようになっています。

新聞の多くの記事は現実の社会生活での出来事や人々が関心を持ち、必要としていると思われる様々な情報で占められています。朝の会等で、その日の新聞の中から、教師だけでなく、それぞれの児童・生徒が興味・関心を持った記事や写真等を報告し合い、それを題材として互いに感想・意見を述べ合う活動も広く行われるようになってきています。このような活動を通して、社会に目を向けつつ、自らの思考力、判断力、表現力等が自然に身に付いてくるのではないでしょうか。

私達の社会は、いろいろな人が、それぞれに、さまざまな場所で、多種多様な活動をすることによって成り立っています。それぞれの児童・生徒が広く社会に目を向け、社会を支える市民としての自覚を深めて行くためにも、ＮＩＥを推進する活動はますます重視されなければなりません。

目　　次

◆ＮＩＥで子どもたちにつけたい力を
～多面的な見方　選択力　表現力～
静岡市立清水三保第一小学校　稲 葉　研 二…… 3

◆表現力を身に付ける
～新聞に慣れ親しむ活動を通して～
浜松市立平山小学校　伊 藤　公 子……7

◆子どもにも　教師にもやさしい「ＮＩＥ」
～実践から見えてくる子どもの可能性～
島田市立川根小学校　松 永　繁 生……11

◆デジタル新聞を活用したＮＩＥ活動
～沖縄修学旅行の事前・現地学習を中心に～
静岡県立裾野高等学校　伊 藤　智 章……14

ＮＩＥで子どもたちにつけたい力を

～多面的な見方　選択力　表現力～

静岡市立清水三保第一小学校　　稲葉　研二

（１）学校としての取り組み

①始めに

本校では、平成26年度、27年度と２年間にわたってＮＩＥの実践指定を受け、５年生、６年生で取り組みを行った。

担当となった私は、５年生の学年主任として、目の前の子どもたちに足りないものをＮＩＥの実践を行うことで補えないかと考えた。子どもたちに足りないと考えたのは、以下の３点である。

Ａ　ものごとを多面的にとらえる力
大変素直な子どもたちだが、決まった見方しかできない。複数の新聞を見比べることで、多面的な見方が身につかないか。
Ｂ　自分で決めるという選択力
自ら進んで何かをするという積極性に欠ける。複数の新聞から、自分が本当に必要な新聞を選ぶことで、選択力が身につかないか。
Ｃ　何かを表現しようとする力
指名されれば発表するが、声や返事が大変小さい。自信のない子が多い。目的意識や相手を意識することで、表現することに意欲的・積極的にならないか。

「ＮＩＥ（の実践）のために何かをやる」のではなく、「ＮＩＥをうまく利用し、自分のやりたいことにつなげていく」ことを意識し、実践を行おうと考えた。そして、どうせやるなら、教師も子どもたちも楽しんでやろうと心がけた。

②新聞の置き場所と整理の方法

26年度は、５年生が中心に取り組み、９月～12月の４か月間で、６紙の新聞をいただいた。学年教室横の多目的室に長机を置き、ＮＩＥコーナーとして、誰もがいつでも自由に読めるようにした。多目的室は広くて、子どもたちが活動するには大変便利だが、その分、他の学年も利用する機会が多く、「じっくり読む」という環境には、なかなかならなかった。

27年度は、６年生が中心に行い、７月、９月～11月の４か月間で、７紙の新聞をいただいた。学年教室と同じ階の第２図書室前に置いた。新聞を置いた場所が他の学年があまり関わらない場所だったため、休み時間等に新聞を読んでいる子どもたちが多数いた。（資料１）また、図書室の前ということもあり、図書司書が、新聞に関する本を紹介するなどの相乗効果もあった。（資料２）

資料１

資料２

各社の新聞を多く並べたのは、同じ記事でも新聞社によって扱い方が違うということを比較して読めるようにするためである。（Ａの力を身に付つけさせる。）同じ「事実（出来事）」であっても新聞社によって、伝え方は様々であり、同じ「事実」に対する各新聞社の「思い」や「考え」、「伝え方」の違いは、一目瞭然である。複数の新聞を見続けることで、各新聞紙の違い等が分かるようになればと考えた。

いただいた新聞は、図書館をイメージして、新聞社ごとにとじ紐でとじ（１か月分）、自由に読めるようにした。月が変わり、古くなった新聞は学年室で一括管理し、学習で新聞が必要なときは、教師がいつでもそこから取り出すことができるようにした。

新聞は、係の子どもが、朝の会後、それぞれの場所にとじにいくようにした。

（２）実践事例

○５年生での取り組み（平成26年度）

①　新聞を知ろう。（４月）（Ａ）　国語「新聞を読もう」

目標：新聞を見比べる活動を通して、見出しやリード文から要旨をとらえたり、複数の新聞記事を読み比べることの意味や効果を知ったりすることができる。
内容：教科書を使い、新聞の一面を参考に、「見出し」「リード文」等を学習する。二つの記事を比べ、気づいたことを話す。

光村図書の教科書の学習である。ＮＩＥの実践に繋げていくには、ぴったりの学習である。ノーベル化学賞を受賞された下村氏の実際の新聞記事を使い、「見出し」「リード文」等を学習した。子どもたちは、ここで、結論を先に見出しで示し、リード文から本文へとしだいに詳しく書いていく「逆三角形の構成」を学び、様々な場面で活用するようになった。また、二つの記事を比べ、気づいたことを話すことで、同じ「記事」でも、新聞社によって伝え方が違うことを学んだ。そして、ものごとには色々な見方があり、そこには何かしらの意図があることを理解した。

②　新聞に親しもう。（９月、10月）（Ａ）　社会「くらしを支える情報」

目標：新聞等の様々な情報を知る活動を通して、情報と私たちの生活との関わりについて考えることができるようにする。
内容：教科書を使い、様々な情報の伝え方や生かし方を理解する。
静岡新聞社やSBSに見学に行き、改めて「見出し」等を学ぶ。

学習予定を変更し、９月に静岡新聞社の見学をした。（資料３）一面の「見出し」「リード文」等を改めて学び、新聞社の一面にかける「思い」や「考え」を学ぶことができた。（資料４）学習を通して、新聞作りには多くの人たちが関わっていることを知り、新聞作りにかける社員の熱い思いを感じ、本物を学ぶことができた。

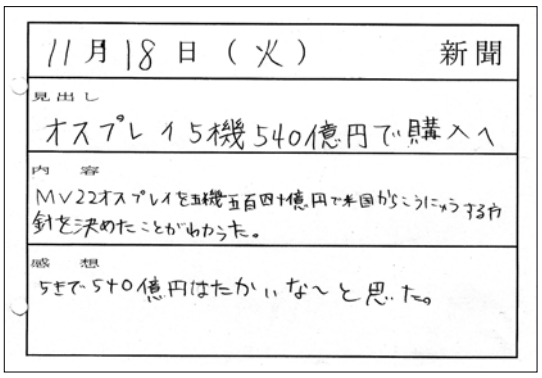
資料３

資料４

③　新聞記事を伝えよう。(11月、12月中旬（33回分)）(B、C)　帰りの会

目標：自分が気になった「記事」を選び、内容をまとめたり、感想を書いたりする活動を通して、読んだことをまとめ、表現する力を養う。
内容：帰りの会の当番の話で、新聞から選んだ「今日の出来事」を紹介する。

当番は、その日の新聞の中から自分が気になった「記事」を選び､「新聞名」「見出し」「内容」「感想」を紹介した。「新聞を読みなさい」と言っても、子どもたちはなかなか読もうとしないが、「当番として新聞記事を紹介する」という目的を与えることで、子どもたちは、自ら新聞に関わろうとした。子どもたちがわからない語句等は担任が補足説明し、子どもたちが今まで以上に新聞に関われるように心がけた。また、発表が苦手な子でも、事前にワークシートに記入することで、紹介がスムーズにできた。(資料５）子どもたちは、「自分で新聞記事を選ぶ」(取捨選択能力)､「文章に書く」(まとめる力)､「クラスメイトの前で発表する」(表現する力）等を学習することができた。


11月18日（火）　新聞
見出し
オスプレイ15機540億円で購入へ
内容
MV22オスプレイを15機五百四十億円で米国からこうにゅうする方針を決めたことがわかった。
感想
5きで540億円はたかいなぁと思った。

資料５

④　新聞記者になろう。(12月）(B､C)　総合「三保松原を紹介しよう」

目標：世界遺産になった「三保松原」を紹介する活動を通して、新聞記事を作る苦労を知ると共に、より分かりやすく伝えるにはどうしたらいいかを理解する。
内容：新聞社の依頼を受け、世界遺産になった「三保松原」の紹介を、伝える相手（主に県外の方）を意識し、紹介する。

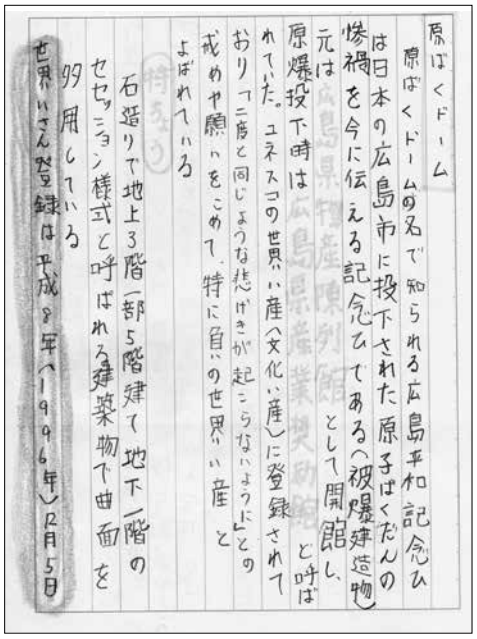
世界遺産になった「三保松原」を、子ども目線で「紹介」することになった。自分たちが新聞記者になったつもりで「三保松原」の紹介を行った。学習を通して、「ただ伝えたい」という自分たちの欲求を優先するのではなく、「伝える相手（主に静岡県外の方々)」や「見出し（知ってもらいたい内容)」等、「他者」(読み手）を意識して紹介することができた。「相手が知りたいであろうこと」と、「自分たちが伝えたいこと」のバランスをしっかり考えた。また、取材等を通じ、様々な出来事や人物に遭遇している記者の体験談は、子どもたちにとって本物に触れるいい機会にもなった。

○６年生での取り組み（平成27年度）

①　新聞記事を伝えよう。(B、C)　帰りの会等

＊５年生での取り組み③と同じ

昨年度に続き、当番が「今日の記事」を帰りの会等で紹介した。ＮＩＥの実践２年目ということもあり、どの子もその日の新聞から、自分が気になった「記事」を選び、「見出し」等を紹介することが、スムーズにできるようになった。今年度は、子どもたちに、時事問題等に興味をもってもらおうと、担任が積極的に補足説明をするようにした。その結果、自主学習等で調べ学習をする子が増えてきた。(資料６）


原ばくドーム
原ばくドームの名で知られる広島平和記念ひは日本の広島市に投下された原子ばくだんの惨禍を今に伝える記念ひである(被爆建造物)元は広島県物産陳列館として開館し、原爆投下時は と呼ばれていた。ユネスコの世界い産(文化い産)に登録されており「二度と同じような悲げきが起こらないように」との戒めや願いをこめて、特に負の世界い産 と よばれている
石造りで地上3階(部5階建て地下一階のセセッション様式と呼ばれる建築物で曲面を多用している
世界いさん登録は平成8年(1996年)12月5日

資料６

②　修学旅行新聞を作ろう。(12月）(B、C）総合「修学旅行の振り返りをしよう」

目標：修学旅行の新聞を作る活動を通して、修学旅行の振り返りをすると共に、「見出し」等を意識した、わかりやすい新聞を作ろうとすることができる。
内容：自分たちが撮影してきた写真を使い、「見出し」等を意識した新聞を作る。

修学旅行のまとめとして、新聞作りを行った。首都「東京」をテーマに、「班別研修（上野・浅草等）で自分たちが撮影した写真」を使い、「見出し」等を意識して作成した。たくさんの写真から、目的にあった写真を選び、新聞を作成することができた。自分が伝えたいことを決め、それにあった「見出し」も工夫し、わかりやすく紹介することができた。（資料７）

修学旅行新聞

大迫力！スカイツリー

12月4日に見たスカイツリーは下から見たら大きくて迫力がすごかった。

エレベーターの映像は音楽によって変わってその映像は、雪が降っている映像だった。展望台に上ることから東京の町全体が見えてきらきすごかった。下を見るガラスやサンタクロースの格好をした従業員もいた。

ドリームクリスマスというとシールもらえた。高さは、634mもあって上からでも下からでも楽しめるスカイツリーだった。

スカイツリー

上野動物園では、アルビノネズミをさわることができる体験コーナーがあって持ったりなでたりした。そこでは、飼育員さんに三保松原宣伝カードカードを配ったりはなしたりした。動物園には、他にもいろいろな動物がいた。

浅草寺

浅草寺では、班のみんなでお参りをしておみくじをやった。帰りは、仲見世通りでみんなへのおみやげを買った。

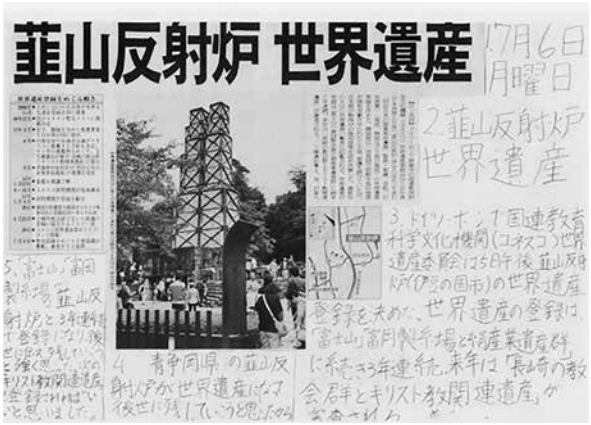
浅草寺

資料７

③　新聞記事を紹介しよう。（12月）（B、C）国語「今、私は、ぼくは」

目標：自分が伝えたいと思う新聞記事を選び、まとめ、伝える活動を通して、伝え方を工夫しながら、相手に伝わるような言葉遣いや説明方法で話すことができる。
内容：新聞記事から、自分が気になる記事を選んでまとめ、友達と交流する。

ＮＩＥ最後の実践として、静岡新聞から、自分が気になった「記事」を選び、「見出し」を中心に切り抜きをし、「紹介シート」を作成して、友達と交流した。（資料８）「見出し」「内容」「選んだ理由」「感想」等を書き、相手の紹介を聞いた後は、必ず感想を伝えるようにした。よく新聞を読んでいたのか、または、選択する力が付いたのか、記事を選ぶのにあまり時間はかからなかった。選んだ紹介記事に自信があるのか、堂々と交流することができた。（資料９）



資料８

資料９

（３）実践の感想と今後の課題

○感　想

①ものごとを多面的にとらえる力がついてきた。
　他者理解ができつつある。
　子どもたちの発言から（様々な見方をしている）、争いが少ないクラス
②物事を比べて考えることができつつある。
③時事問題について興味を持ち始めている。
　自主学習での新聞の切り抜きや子どもたちの日常会話から。
④読書量が多い。新聞を読んでいる子が多い。
　今年度の「学力学習状況調査の結果」から

○課　題

①「ＮＩＥで何をすれば…」最初は、戸惑いを感じた。
②個人の負担が大きい。学校全体で取り組むための研修体制が大切になる。
③新聞を購読してない家庭が多い。今後は、家庭をどう巻き込んでいくかが大切になる。

表現力を身に付ける

～新聞に慣れ親しむ活動を通して～

浜松市立平山小学校　　伊藤　公子

１　はじめに

（１）本校の紹介

本校は、浜名湖の北西に位置する浜松市北区三ヶ日町にある全校児童56人の小さな学校である。平山、長根、分寸の３地区（頭の文字をとって「ひなぶ」という）からなっており、みかん作りが大変盛んな所である。自然豊かな恵まれた環境の中で育っている本校の児童は､明るく素直で、与えられたことに対してとても真面目に取り組むよさを持っている。反面､自分から課題を見付け、主体的に粘り強く取り組む姿勢にやや物足りなさを感じる。また、ほとんどの児童が、幼稚園から一緒のクラスであり、多くを語らなくても分かり合える関係であるので、自分の考えを順序立てて分かりやすく伝えることが苦手である。

（２）実践にあたり

本校の学校教育目標は､「豊かな心をもち、がんばる『ひなぶの子』～なかまとともにチャレンジ」である。研修テーマは「自ら学び、進んで表現する子」である。この研修テーマの下で、本校児童の課題である自分の考えや思いを相手に分かりやすく伝える表現力を身に付けるために、新聞を活用していきたいと考えた。

そして、１年間の教育課程の中でできそうなことを考え、１年生から６年生の発達段階をふまえ決して無理をしないことを意識した。小学生にとって、新聞は、あまり身近なものではなく、むしろ難しい取っつきにくいものである。低学年では、言葉探し、高学年では、新聞の記事や構成を学習の参考にするなどの活動を行い、新聞に少しでも興味をもたせ、新聞は情報の宝庫であるということを知らせたいと考えた。

２　新聞の置き場所と整理方法

本校は、校舎が２階建てである。１階に、職員室と１年生、２年生の教室があり、２階に３年生から６年生の教室がある。そこで、２階の廊下の中央に机を置き、閲覧コーナーを設けている。休み時間や昼休みなどに、自由に読める環境にはあるが、手にとって読んでいる児童は少ない。たまに、給食後の歯磨きの時などに、スポーツの記事を目にしている児童がいるぐらいである。

閲覧が終わった新聞は、教材室で保管した。また、子供向けの記事を教室に掲示したり、総合や国語の新聞作りの参考にするために活用した。

３　実践の内容

（１）静岡新聞社の出前講座（４・５・６年）

まず、子供たちに新聞を身近に感じてもらおうと、静岡新聞社の出前講座に申し込んだ。細江支局の記者の方が、新聞ができるまでの概要を分かりやすく説明してくださった。また、どうして新聞記者になったのか、どういう思いで取材をしているのかというお話もしてくださったおかげで、新聞の記事は､事実を伝えるだけのものではなく、新聞記者をはじめ新聞作りに携わる多くの方の思いも詰まっているのだということを知ることができた。

（2）校長先生によるリーダー塾（６年）

本校では、校長先生が講師となり６年生を対象にリーダー塾というものを行っている。学校のリーダーである６年生の自覚を高めるため、校長先生が自ら内容を考え、講話や実技演習をしてくださっている。

昨年度の１学期、ＮＩＥの実践１年目ということもあり、「新聞の写真に見出しを付けよう。」と６年生に投げ掛けた。その写真は、なでしこジャパンがワールドカップで優勝したときの写真である。その写真に、10字以内で見出しを付けようというものである。最初、子供たちは戸惑っていたが、それぞれの感性で見出しを付けていった。10字以内という字数制限があったことで、言葉を精選することの難しさを学んだようである。また、新聞の見出しに興味をもつようになったと思う。

（3）カタカナ集め（１・２年）

１・２年生は、「カタカナ集め」を行った。１年生は、テレビ欄の中からかたかなを見付け、一人一人自分のホワイトボードに書いていった。字を正しく書くことも、大切な勉強であると感じた。２年生は、様々な記事の中から、かたかなを探した。グループごとに、黒板に書いていき、あっという間に黒板がかたかなでいっぱいになった。低学年では、ゲーム感覚で言葉集めに取り組んだ。しかし、楽しいだけではなく、言葉の意味まで考えることで語彙を増やすことにつながっていくのではと感じた。

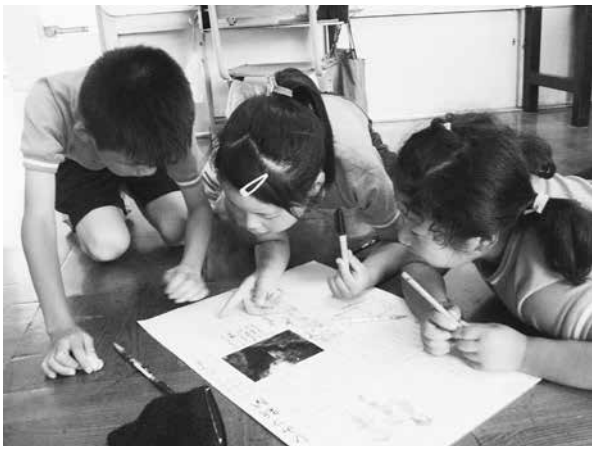
（4）夏の記事を探そう（３年）

３年生では、１学期に「夏」に関係する記事を見付ける活動をした。普段あまりなじみのない新聞を一生懸命見て探した。写真や大きな見出し、広告などが、目にとまり思った以上に「夏」の記事を探すことができた。また、言葉の意味についてもみんなで調べた。

（5）総合のまとめの新聞作り（３年）

本校の３年生は、総合的な学習の時間で、地域の自然や神社、みかんなどについて調べている。様々な観点で調べ学習をしたまとめとして、グループで新聞を作った。その新聞を作るときに、

本物の新聞の一面を見て、気が付いたことを話し合った。見出しが短い言葉で大きく書かれていること、写真や図を載せることで、記事の内容がひと目で分かることなどの意見が出された。



（6）国語科の新聞作り・リーフレット作り（４年）

４年生の国語の学習の中には、新聞に関連した教材がいくつかある。

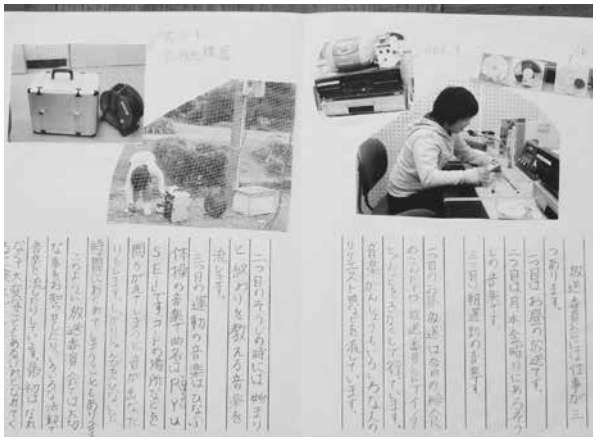
＜新聞を作ろう＞

単元の最初に、新聞を見て、気が付いたことを発表し合った。いくつもの記事が集まってできていること、記事ごとに内容がひと目で分かるような見出しがついていること、記事と合わせて写真などが使われていることなどの特徴をつかむことができた。

次に、何についての新聞にするかテーマを決め、アンケートや取材を行うなどして新聞の作成を進めていった。その時に、新聞の記事をスクラップにして載せていたグループもあった。３年生で既に、新聞作りに取り組んだ経験があるので、どの子もまとめ方のイメージをつかんでいるようで、スムーズに作業を進めていた。

＜リーフレットを作ろう＞

国語科「アップとルーズで伝える」では、写真のアップとルーズで、それぞれどんなことを伝えることができるかを学習した。教科書に載っているものや、実際新聞に載っている写真を見て、アップとルーズで伝えるよさや違いを確かめた。この学習の後に、「リーフレットを作ろう」という学習があった。テーマは、「委員会活動を３年生に紹介しよう」「習い事を友達に紹介しよう」の２つにして、リーフレット作りに取り組んだ。



（7）国語「想像力のスイッチを入れよう」（５年）

ある新聞記事を子供達が読み、その記事について、他の新聞やニュースではどんな伝え方をしているか調べた。子供達は、同じ話題の記事でも、とらえ方、伝え方に違いがあることに気が付いた。物事について考える時に、ある一面だけでとらえるのではなく、様々な方向から見ることの大切さを実感したようである。

（8）１分間スピーチ（６年）

昨年度から、６年生は、朝の会で１分間スピーチに取り組んでいる。スピーチの内容は、自分が

興味をもった新聞記事を１つ選んで、記事の内容や自分がそれについて考えたことを発表するものである。始めの頃は、スポーツの記事が多かったが、少しずつ社会的に大きく取り上げられた話題や自分たちが住んでいる地域の話題にも目を向けるようになっていった。

４　実践の感想と今後の課題

成果としては、いろいろな場面で、新聞を活用することで、子供たちが新聞を少し身近に感じられるようになったと感じる。また、国語や総合的な学習の時間のねらいに迫るための手立てとして大変有効であった。特に、新聞作りにおいて、どのように表現して伝えるか、構成を工夫する過程の中で、思考力、表現力が身に付いたと思う。

また、６年生は、１分間スピーチに年間を通して取り組んだことで、自分の考えを順序立てて話すことを通して、発信力、コミュニケーション能力が、高まったと思う。スピーチを聞く側も、友達が興味をもった記事やそれについての考えを聞くことで、受信力が高まったり、友達のよさを認めることができたのではと思う。

課題としては、小学生にとっては新聞は、難しい漢字が多くあり読んで理解するには大変難しいこと、有効的に活用するためには教師自身に託された面が大きいことが挙げられる。１年間を通して、どの教科で新聞を活用すると成果が上がるか、見通しをもって取り組む必要がある。毎年、学年担任が替わる中で、誰がどの学年を担任しても、教科の担任が替わっても、活用できる年間指導計画の作成が大きな課題である。

学校の教育課程の中で、１年生から６年生まで、それぞれの発達段階に合わせ、全校で無理なく取り組めたことはとても良かったと思う。新聞を様々な場面で活用することで、教科書だけでは学べない広がりのある学びができたと感じている。これからも、教師の教材研究の１つの材料として、新聞を活用していけるように校内研修等でＰＲしていきたい。

子どもにも　教師にもやさしい「NIE」

～実践から見えてくる子どもの可能性～

島田市立川根小学校　　松永　繁生

1　はじめに

本校は、島田市北部に位置し、山間の大井川に沿って開かれた素晴らしい自然環境に囲まれた学校である。167名の全校児童は、学年が違えど仲が良く、一緒に遊んだり、活動したりする姿が日々の生活の中でよく見られている。また、地域の方々も子どもに関心を持ち、温かい環境の中で子どもたちはのびのびと過ごしている。

そんな中、新聞を購読している家庭が減少しつつあり、新聞を手にとって見ることがないという子どもたちが増えてきている。こうした実態も踏まえ、「まずは新聞を手にとってみよう」と始めたNIEである。新聞を自由に読める環境があり、子どもたちが新聞に興味を持ち、手にとって開く。また、日々の話題の中に新聞に掲載された記事の内容が関わってくる。少しでも新聞を身近に感じる川根の子どもたちが増えていくことを期待し、本テーマを設定、実践を重ねていくこととした。

2　新聞の置き場所と整理方法

本校は新校舎へと変わり、校舎中央に新しくホールが造られた。全校児童が入る程の広さであるこのホールは、授業での活用はもちろんのこと、休み時間も多くの子どもたちが集う場所でもある。

この片隅に本棚を設置し、図書とともに新聞も数社分置くこととした。その場で読めるように旧校舎で使っていたソファーも置いた。ホールから教室が近い１年生や２年生の姿を見ることができた。３年生以上の子どもたちについては、社会科や理科の学習での調べ学習の資料として活用する姿を見ることができた。　**【写真１参照】**

また、教師も新聞を活用できるように職員室内に新聞を置くスペースをつくった。棚を置き、数日分の新聞を置けるようにした。　**【写真２参照】**

写真１　ホールの新聞コーナー

写真２　職員室の新聞コーナー

3　実践内容

実践内容については、次の通りである。

（１）子どもも教師もすぐに手に取ることができるように身近に新聞を置く場所を設置する。

（２）各学年で新聞を利用した活動を１つ行う。

３年…係活動を生かして学級新聞作り
新聞を利用したコラージュや造形遊び

４年…新聞から見つけた「注目のニュース」について友だちと伝え合う

５年…新聞から興味を持った記事について取り上げ、意見や感想を書く
学校行事での思い出や学んだことを新聞にまとめる

６年…新聞から興味を持った記事について取り上げ、意見や感想を書く
新聞の人物紹介欄などを用いて働くことの意味を学び、自分の将来の夢や希望について考える

４　実　践

（１）３・４年生の実践

３年生では、学級の係の仕事に「新聞係」を作り、行事の後に学級の様子を新聞にまとめてみんなに読んでもらうようにした。また、学習後、単元のまとめとして、見出しを工夫した新聞を作成し、学びを振り返る場の１つとしていった。

学年行事後のまとめも新聞形式で行った。図工では、新聞を材とし、コラージュや造形遊びの活動も行うことができた。

写真３　スクラップブックの例

４年生では「今日の注目ニュース」と題し、朝の活動の中で新聞から見つけた自分が気になるニュースを友だちに紹介する活動を行った。夏休みには、家庭学習の一つとして、自分の気になるニュースの記事を切り抜き、スクラップノートに貼っていく活動を取り上げた。　**【写真３参照】**

４年生では、このスクラップブック制作を今でも続けている。「この写真がとってもいいんだよ。」「昨日のニュースでも言ってたけど、新聞に記事が出ていたから気になったよ。」等、記事の内容にもふれてコメントを書く子が増えてきた。この活動を始めた頃は、記事の写真だけを見たり、見出しから内容を何となく想像したりといった子どもたちの様子であったが、記事のスクラップを続けているうちにどんな内容なのか、何が書かれているのか気になって深く内容を理解しようとする子や、その内容について自分なりのコメントを入れる子が見られた。

社会科等、教科で学習していることと関わるタイムリーな記事も一つの資料として子どもたちが活用できるように指導をしていきたいと考える。

（２）５・６年生の実践

５年生では、国語の学習と関連して新聞を使った授業を実践した。新聞の中から自分が取り上げた記事を見つけ、書かれている内容について自分なりのコメントを文章で表現するといった内容である。　**【写真４参照】**

「この記事知ってる。昨日、テレビのニュースでも見た。」「サッカーの事に関係する記事を探すんだ。」と呟きながら、真剣に記事を読む子どもたち。難しい意味の言葉があると、友だちに確認し、それでもわからなければ教師に尋ね、理解しながら次へと読み進めていく様子に、記事の内容をわかりたいという子どもたちの切実な思いが感じられた。

写真４　新聞から記事を見つける子どもたち

記事が決まると、それを切り取り台紙に添付する。次は、記事の内容に対する自分のコメントを書くため、更にじっくりと内容を読んでいる。新聞は四社用意し、その中から記事を探したため、同じ出来事の記事でも見出しが違う。「ぼくはこの記事が気になったなあ。」「私もそう。でも、これって同じ記事なの？」。記事の対象となる出来事は同じでも、記事を書く側の視点が違えば見出しも変わる。同じ出来事なのに、どうして異なる見出しがつくのか。この事に、子どもたちは気がつき始めた。その後、どこに視点を置き記事を書くのか、書く側になって考える姿を見ることができた。

自分の気になる記事を探すという活動から、書く側になって考えるという活動につなげることができた。文章を書くことは思考するということである。子どもたちの考える力の向上の可能性を垣間見ることができた。

６年生では、学んだことを新聞の形にまとめる活動を続けている。　**【写真５参照】**

教科の学習で学んだ事や、修学旅行等体験を通して学んだ事の中から記事にしたいことを自分で選び、書く内容を考えてまとめることができた。続けて行くうちに､出来事の中から何を取り上げ、どう書くのかといった内容を工夫する姿が見られるようになってきた。初めは自分の書きたいことを中心に書いていた子どもたちであった｡しかし、次第に読み手を意識した文章を書こうとする傾向が見られるようになった。読み手に何をわかってもらいたいのか、新聞の記事に書かれた文章を理解しようと読むことで、子ども達の意識に変化が見られたのだと思われる。新校舎建設に伴い、市の川根図書館が学校に併設となった。新校舎に移ってからというもの、子どもたちの図書館の利用がぐんと増えている。本を手に取ることで、子どもたちは言葉や文章へ慣れ、親しみが増してきていることは事実である。図書館の利用と新聞の活用について、工夫できることを模索していきたいと考える。

写真５　廊下に掲示された新聞

５　成果と今後の課題

（1）成　果

各学年の子どもたちの実態に応じて新聞を取り上げた活動を行うことで、目の前の新聞を自然に取り上げ、開いて見る子どもたちの姿を少しずつではあるが見るようになった。新聞が子どもたちの身近にあることや新聞を取り上げた活動を日々継続していることがその要因であると考える。ホールに新聞コーナーを設置したことで、新聞が子どもたちにとってより身近なものとなりつつある。近くにソファーを置き、その場で読める環境をつくったことは、少なくとも子供たちへ良い影響を与えているのではないかと思われる。新聞を手に取る姿が高学年だけでなく、低学年でも見られることはとても良い表れであると言えよう。

授業において、学習したことを新聞にまとめるといった活動を取り上げていることから、子どもたちのまとめ方に少しずつ変化が見られた。内容のわかりやすさを意識したまとめ方の工夫が見られつつあるのだ｡まとめる自分はもちろんのこと、読んでわかるにはどのようなまとめ方が良いのか工夫をしようとする子どもの姿が見られることは事実である。文書を書くために「書く中心になることを決める」「読み手にわかる文章にするために構成を考える」といった内容は、学習指導要領の国語科「書く」に示されている「つけたい力」の一つでもある。新聞を読む、活用することを通して、子どもの「書く」力の向上にもつながっていくのではないかと思われる。

（2）課　題

２年間行った「ＮＩＥ」の実践であるが、子どもたちにとっての新聞の捉え方に変化が見られたことは確かである。しかし、まだまだ「新聞に親しむ」「新聞を、学びを確かなものとするツールの１つと捉える」ことについての意識は、十分であるとは考えにくい。

新聞を調べ学習のための１つの手段として扱うことも活用の１つである。ネット検索の普及が進む現代社会において、新聞は活字を使い、何度でも読み返せる手軽な手段の一つである。この新聞のよさを、われわれ大人ももう一度見直す必要性を感じている。

子どもたちにとって、大切なのは「新聞ってすごい」という思いを持てることではないだろうか。そのためには、無理をすることなく「ゆっくり、そして楽しみながら」といった思いを持ち、ＮＩＥに取り組むことが、子どもにも、そして我々教師にもいいのではないだろうか。

デジタル新聞を活用したＮＩＥ活動

～沖縄修学旅行の事前・現地学習を中心に～

静岡県立裾野高等学校　　伊藤　智章

【１】本校の概要と NIE 活動の目的

県東部、富士山の東麓に位置する本校は、沼津･駿東地区唯一の総合学科高校である。生徒数は573名、１学年５クラスを擁する。総合学科では、普通教科に加えて、専門教科である商業科および福祉科の科目から選択して履修することができる。生徒は、２年次から人文国際、自然科学、会計ビジネス、情報ビジネス、福祉介護の５つの系列に分かれて学習する。

ＮＩＥの活動は、教科では地理歴史・公民科、校務分掌では図書課が中心となり、各教室と毎週図書委員が新聞を配架し、図書室で新聞を読める環境を整えた。２年目からは、県の重点枠予算により、インターネット経由で新聞紙面を閲覧する「電子新聞」の契約を結び、パソコン室と職員室、図書室で閲覧する環境を整えた。また、教室の新聞を使って進路に関する記事の切り抜きをさせてポスター形式で発表させた学級担任や、夏休みの課題に新聞切り抜きのスクラップを作らせた教科もあった。

２年間のＮＩＥ活動を行う上で、重視した点は２つである。１つは、デジタル新聞やタブレット端末などにより、ＩＣＴを生かした新しいＮＩＥを確立すること、もう１つは、小中学校で培われた実践を踏まえて、高等学校独自のＮＩＥ活動を確立して普及・提案を行うことである。

以上の目的を踏まえ、本稿では、ＮＩＥ活動で中心的な役割を果たした２年生の公民科の学校設定科目である「現代社会演習」で行われた修学旅行に絡めた実践について報告する。

【２】生徒の実態

実践の報告に先立って、本校の生徒の新聞活用に関する実態を紹介する。図１は、本校生徒の新聞講読に関するアンケート調査の結果である。

回答した生徒（473名）のうち、「ほぼ毎日、新聞を読む」と回答した生徒はわずか14名（３％）に過ぎず、「新聞は全く読まない」と回答した生徒が409名（86％）にのぼった。１，２年生を対象とした調査では、「家で新聞を取っていない」と回答した生徒は半数以上（80名･56.3％）あり、多くの生徒が日常的に新聞を読む機会を持っていない。ただ、テレビやスマートフォンからインターネットに接続してニュースを見る生徒が多い（図２）。

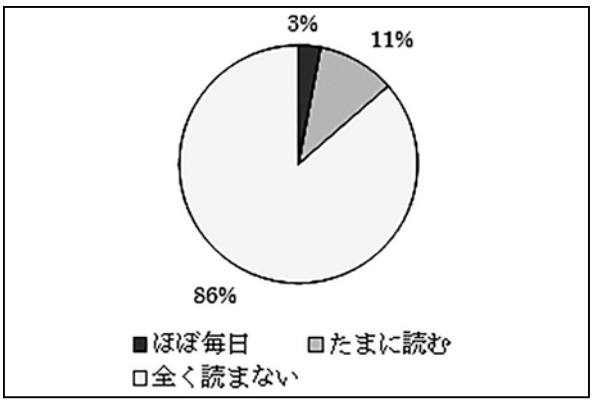


図１　生徒が新聞を読む頻度
（全学年アンケート調査）

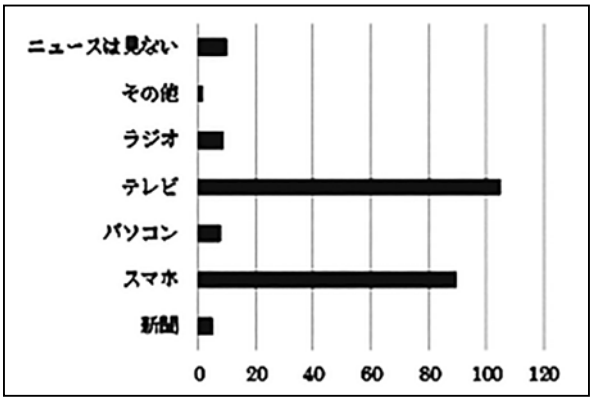


図２　生徒がニュースを知る手段
（１，２年生アンケート調査）

【３】授業の実際

２年生の「現代社会演習」は、上級学校の入学試験や就職試験で課される小論文に対応するため

の社会的な教養と、論文作成の方法を実践的に学ぶことを主眼に置いている。年間を通じて新聞記事の要約や、時事問題に関する意見表明をするアクティブ・ラーニング型の授業を行っているが、修学旅行（１月下旬）を控えた２学期後半から３学期にかけては、「現代沖縄演習」と題して沖縄の新聞や歴史を踏まえた授業を行っている。

特設単元「現代沖縄演習」を実施するために、沖縄で発行されている現地紙（沖縄タイムス・琉球新報）を過去１年分購入して授業を展開した。生徒が紙媒体から集めて整理した記事と、「沖縄タイムス」紙の「電子版」の記事を組み合わせてデジタルデータ化し、タブレット端末で動作する地図アプリケーションソフト（以下、「記事×地図アプリ」と呼称する）上で展開し、現地研修に活用した。なお、「記事×地図アプリ」の制作にあたっては、商業科の「情報ビジネス系列」の必修科目である「情報処理」で行った。

表１は、「現代社会演習」の指導計画である。沖縄から取り寄せた大量の紙の新聞に触れさせ、全国紙では見る機会が少ない「ローカルなニュース」から、沖縄の今と、諸問題について考察させ、共同作業や現地での経験を踏まえて小論文を書けるようにするのが目標である。「アナログ」なＮＩＥをじっくり行うことで、沖縄への理解を深めた。

表２は、商業科の「情報処理」の時間に行った電子新聞と地図アプリの制作の授業の指導計画である。

表１　公民科「現代社会演習」“現代沖縄演習”の指導内容（週２時間）

		テーマ	内　　容	場所
２学期後半	1	イントロダクション「沖縄」の現代	映像や新聞記事（全国紙）を使って、沖縄の最近のニュースを紹介する	教　室
	2	広告記事で見る「沖縄らしさ」①	沖縄のローカル紙（琉球新報、沖縄タイムス）の広告欄から、沖縄らしいものを選び、レポートをまとめる	図書室
	3	広告記事で見る「沖縄らしさ」②	発表と解説　班を作ってお互いに発表をし、面白いと思ったものを全体で発表する	図書室
	4	「記事地図」を作ろう	①班を作り、沖縄のローカル紙の記事を自由に切り抜く ②テーマにそって記事を集める ③パソコン教室で「沖縄タイムス電子版」に触れ、記事のデジタル切り抜きを行う ④模造紙の中央に沖縄全図（観光地図）を貼り、記事の地名を頼りに記事を配置し、コメントを書く	図書室
	5			図書室
	6			図書室
	7			ＰＣ室
	8			ＰＣ室
	9			図書室
	10			図書室
	11	「記事地図」発表会	班毎にテーマに沿った発表を行う。最も優れた発表に投票させる	図書室
３学期前半	12	古い記事で知る現代沖縄①首里城	講義を聞き、関連する記事の内容を理解する	図書室
	13			
	14			
	15			
	修学旅行			
	16	まとめ	沖縄を象徴する記事を一つ選び、小論文形式で自分の意見を述べる	図書室

図３・図４　「現代社会演習」で制作した生徒の作品
（中央に沖縄全島図を置き、周囲に切り抜き記事を貼り、地図上の番号と対応させている）

表２　商業科「情報処理」“「記事×地図アプリ」づくり”授業内容（週２時間）

		テーマ	内　　容	場所
２学期 後　半	1	イントロダクション 地図アプリと電子新聞	2014 年度に試作したアプリに触れ、概要を知る。デジタル新聞に触れる	ＰＣ室
	2	アナログ記事の デジタル化	「現代社会演習」生徒が集めた記事を iPad で撮影してサーバーに蓄積する	図書室
	3	記事に位置情報 を付ける①	デジタル化された記事画像の場所を、地図サイトから特定し、画像に「ジオタグ」（緯度経度情報）を付与する	ＰＣ室
	4	記事に位置情報 を付ける②	デジタル化された記事画像の場所を、地図サイトから特定し、画像に「ジオタグ」（緯度経度情報）を付与する	ＰＣ室
３学期	5	iPad に転送する	地図データ、記事データを iPad に転送し、自分達の班の「地図／記事アプリ」を完成させる	図書室
	6	「記事×地図アプリ」 で現地を歩く	修学旅行の「系列別研修」で実際に操作しながら、那覇の歴史を学ぶ	那覇市内
	7 8	学習のまとめ	今までの学習内容をスライドにまとめ、学習発表の準備をする	ＰＣ室
	9	発表 （学年：系列別発表会）	総合学習の時間で自分達の研修内容について内容を発表する	ホール

「情報処理」では、新聞記事を基本的に画像ファイルとして扱う。「現代社会演習」の生徒達が集めた記事をデジタル化（各自のタブレット端末で撮影）したもの、各自が「電子新聞」から切り抜いたもの、新聞社から頂いた古い記事の３種類である。これらの画像ファイルをサーバーに集め、班で分担して記事が書かれた場所を特定し、画像ファイルに位置情報をつけた。位置情報は「ジオタグ」と呼ばれ、写真が撮られた場所を緯度経度の座標で表すものである。生徒は、パソコンのフ

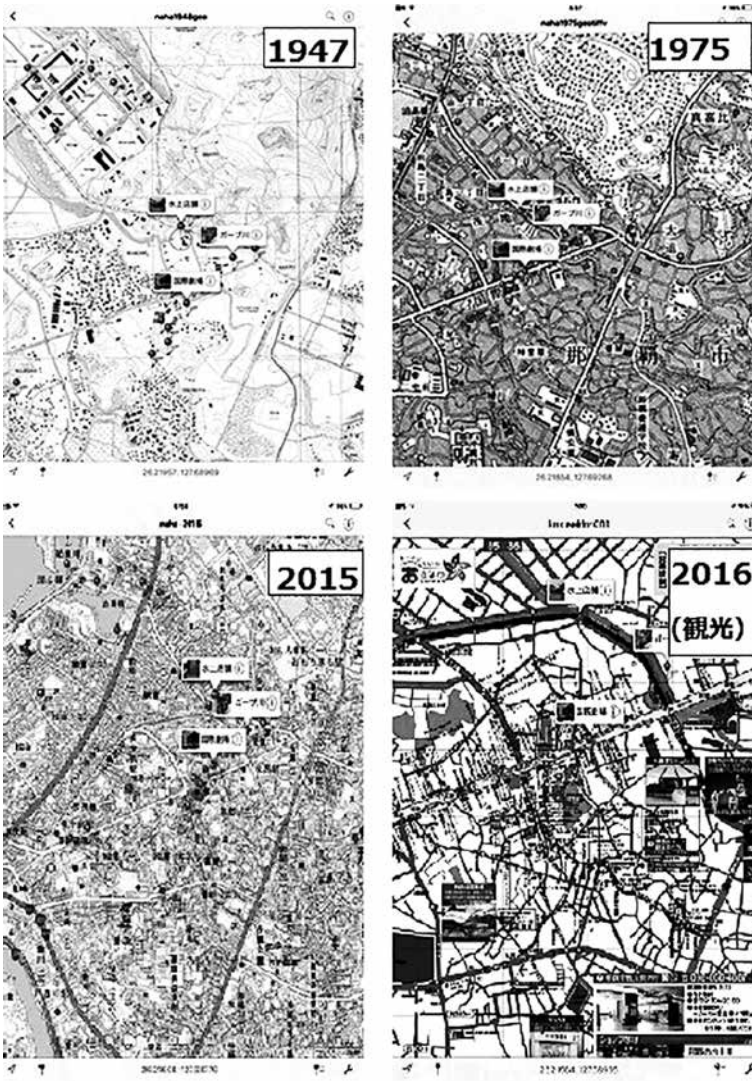
リーソフトを使って、地図から場所を探して記事の画像に付与して再保存させた。最後に、地図画像のデータと位置情報のついた新聞記事の画像をタブレット端末に転送し、地図閲覧アプリ上で開くと、地図上に新聞記事を配置した「地図×新聞記事」アプリが完成する。

【4】「記事×地図アプリ」を使った沖縄フィールドワーク

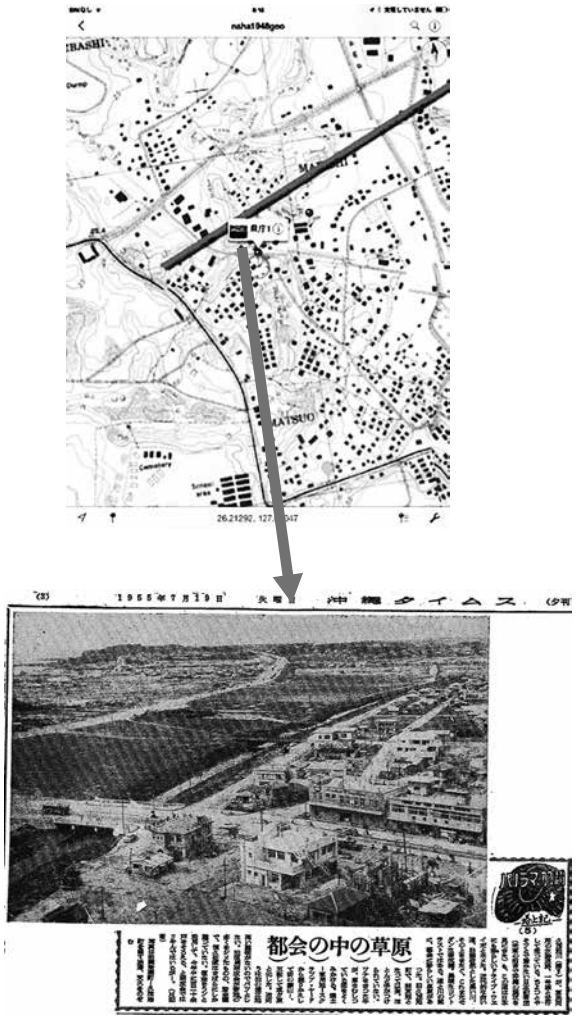
修学旅行は、2016年１月26日から30日の４日間行われた。このうち、２日目の午後の研修で、「情報ビジネス系列」の生徒が、自ら作成した「地図×記事アプリ」を使って那覇市内で研修を行った。

ＧＰＳを内蔵したタブレット端末でアプリを開くと、現在の地図はもとより、戦前の古い地図や観光案内用の絵地図など、取り込んでおいたあらゆる地図の上で現在地が表示される。図５は、沖縄全図を表示したもの、図６は、同じ場所（那覇市国際通り周辺）を時代毎に地図を変えて表示したものである。それぞれの地図上で示されたピン型のアイコンに触れると、当時の新聞記事を見ることができる（図７）。

那覇市内で行った「系列別研修」では、記事を提供していただいた沖縄タイムス社から４人の記者が同行していただいた。沖縄タイムス紙と静岡新聞紙上で同時に報じられた（図８）。



左：図５　タブレット端末で表示した「記事×地図アプリ」①（沖縄全体図）
右：図６　タブレット端末で表示した「記事×地図アプリ」②（那覇市中心部の各時代別地図）



写真を撮り、アプリに取り込みながら那覇の街の移り変わりを学ぶ糸満野高校の生徒たち＝那覇市・にぎわい広場

アプリ使い那覇巡る

糸満野高生 修学旅行で変遷学ぶ

修学旅行で沖縄を訪れた県立糸満野高校の2年生27人が27日、沖縄タイムスの記事をデジタル地図上に落とし込んだアプリを使って、那覇市の国際通りとその周辺を歩いた。生徒たちは、タブレット端末で現在地の地図と、その場所に関する記事や写真を確認しながら街歩き。景観の変化や歴史を楽しみながら沖縄のことを学んだ。

生徒たちは、情報処理の授業の一環で、アプリを製作してきた。現在の地図とともに、1919年、48年、75年当時など数種類の地図や記事が取り込まれており、沖縄戦前後や本土復帰後の市街地の変遷を知ることができる。例えば、旧沖縄山形屋（現ホテルJALシティ那覇）前で地図をタップすると、同店開店の記事（1999年）が出てくる。現在の様子を撮影して載せることもできる。

アプリを活用した那覇巡りは昨年に続き2度目。生徒たちは、沖縄タイムスの記者らから説明を受けながら、タブレットと実際の街並みを見比べていた。

鳥居大輔君（17）は「数年後にはまた街が変わっているかもしれない」と、各地を撮影。「動画も作ると、面白そう」とアイデアを膨らませていた。横山菜々さん（17）は「年代を経るうちに観光客向けの道になっていった様子が分かった。平和通りは日用品の店が多くて、今も地元の人に親しまれているようでよかった」と話した。

（沖縄タイムス社提供）

左：図７　新聞記事の表示例

（米軍作成1947年”那覇”地形図上に1955年７月１日付沖縄タイムス記事。地図中央の太線は、建設途上の「国際通り」）

右：図８　本校生徒のフィールドワークを報じる新聞記事

（静岡新聞：2016年１月28日朝刊）

【5】まとめと展望

ＩＣＴを援用して、高校ならではのＮＩＥの確立を目指して教材作りと実践を試みた。

高校では、教科の専門性が高く、小中学校にはない教科・科目や学校設定科目も多く設置されている。普通教科である公民科と、専門教科の商業科の教員が協力して行った今回の実践は、高等学校、とりわけ総合学科高校だからこそできたＮＩＥ活動といえる。

また、高等学校は、学校によって生徒の学力や学習習慣に違いがあり、学校の実情に合わせた授業を工夫する必要がある。今回の実践では、新聞を読む習慣が乏しい生徒が多いことを前提に、大量の新聞記事に「触れさせる」、記事が書かれた「場所と時代を知る」、記事が書かれた「現場を感じる」事に注力した。すぐに新聞を日常的に読む習慣にはつながっていないかもしれないが、生徒と新聞の距離を縮めることは出来たのではないかと考えている。

今回得られたノウハウを生かし、今後は地元の記事と地図を使ったアプリの制作を通じて地域の歴史や課題に目を向ける実践を行いたい。ＩＣＴを活用した「高校ならではのＮＩＥ」を更に深化させることで、高校生の新聞への興味・関心を高めていければと思う。

静岡県ＮＩＥ推進協議会　実践指定校一覧

2000 年度　熱海高、磐田・城山中、静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小

2001 年度　静岡西高、静岡聾学校、天竜・下阿多古中、静岡・長田南小、浜松・東小、三島・佐野小、掛川・桜木小、長泉高、小山・北郷中、浅羽中

2002 年度　長泉高、小山・北郷中、浅羽中、静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小

2003 年度　静岡城北高、磐田南高、浜松城北工業高、静岡中央高、焼津中、湖西中、静岡・富士見小、熱海・初島小、浜北・大平小、天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中

2004 年度　天竜養護学校、加藤学園暁秀中・高、浜松・江南中、沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小

2005 年度　沼津城北高、静岡サレジオ高、城南静岡高・中、浜松・天竜中、韮山中、磐田東中・高、富士宮・大富士小、大井川東小、掛川・日坂小、湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小

2006 年度　湖西高、沼津高中等部、岡部中、浜松・芳川北小、清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小

2007 年度　清水西高、日大三島高・中、東海大付属翔洋高、西部養護学校、磐田・一中、浜松日体中・高、静岡・長田北小、浜松・竜禅寺小、牧之原小、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小

2008 年度　東海大付属翔洋高、不二聖心女子学院、沼津・静浦中、静岡・安東小、浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小

2009 年度　浜松・豊岡小、御前崎・一小、大井川高、浜松・雄踏中、磐田・豊田南中、御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、静岡・清水小河内小、三島・徳倉小、清水町立南小、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小

2010 年度　御前崎・浜岡中、静大付属静岡中、川根高、浜松江之島高、富士・吉原三中、浜松学芸中・高、静岡・大里西小、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小

2011 年度　浜松江之島高、浜松学芸中・高、常葉学園中・高、下田東中、島田・金谷中、袋井中、静岡・東源台小、浜松・与進小、東伊豆・稲取小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、磐田・神明中

2012 年度　常葉学園中・高、島田・金谷中、磐田・神明中、静岡・東源台小、浜松・有玉小、島田高、島田樟誠高、静岡・清水五中、浜松・北部中、御殿場・南中、富士宮東高、掛川工業高、浜松・三ケ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、静岡・城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小

2013 年度　富士宮東高、掛川工業高、浜松･三ケ日中、焼津･大村中、静岡･安西小、静岡･城北小、沼津・原小、静岡サレジオ小、金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、島田高、常葉学園中・高、島田・金谷中、静岡・東源台小、浜松・有玉小

2014 年度　金谷高、浜松城北工業高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中、裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、浜松・三ケ日中、焼津・大村中、静岡・安西小、浜松・有玉小

2015 年度　裾野高、駿河総合高、島田商業高、静岡・清水興津中、南伊豆・南伊豆中、静岡・清水三保第一小、浜松・平山小、富士・田子浦小、島田・川根小、東海大付属小、金谷高、静岡・高松中、浜松・積志中、裾野・深良中

静岡県ＮＩＥ推進協議会

〒422-8033
静岡市駿河区登呂３丁目１番１号
（静岡新聞社内）
TEL 054－284－9152
FAX 054－284－9362